

## 獣疫学〈第三版〉お詫びと訂正

本書におきまして、以下の誤りがございましたので、ここに訂正するとともにお詫び申し上げます。

訂正箇所	誤	正	備考
<p>25頁・「a.流行型」の「共通感染源流行型」の段落</p> <p>「図3-1……が確認できる。」は、右の通り「増殖流行型」の段落の「また、……挙げられる。」の前に移動</p>	<p>a. 流行型</p> <p><b>流行型</b> epidemic とは、特定の疾病の発生件数が、ある集団や地域において通常の発生頻度を超えている状態をいう。一般に1つまたは複数のピークを伴う。比較的潜伏期の短い急性感染症でみられることが多い。宿主間の水平感染があるかないかで増殖流行型と共通感染源型がある。</p> <p><b>増殖流行型</b> propagated epidemic とは、空気感染や接触感染による感染力の強い病原体が次から次へ伝播し、病原体が急速に広がる発生をいう。動物の感染症では、口蹄疫や豚熱など伝播力の強い病原体が清浄地域に入った場合や病原体が強毒型に突然変異した場合など、病原体と宿主のバランスが崩れ、病原体が優勢にある場合に生じる。また、特に同一の疾病が世界的規模または国境を越えて広範な地域に及ぶものを汎流行型 pandemic という。1918年に発生したスペイン風邪や、2019年に発生した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)などが挙げられる。</p> <p><b>共通感染源流行型</b> common source epidemic とは、共通の感染源に感受性宿主が曝露され、宿主間の水平感染がない場合に生じる。人の食中毒、牛の硝酸塩中毒、水系汚染によるレプトスピラ症、土壤汚染による破傷風などがある。図3-1は、2013年10月に日本においては7年ぶりに発生が確認された豚流行性下痢の発生パターンを示したものである。初発確認から感染は急速に広まり、2013年10月～2014年9月の1年間に38道県819農場において発生が認められた。2014年4月をピークとした一峰性の分布が確認できる。</p>		
91頁・下から4行目	偽陽性の個体を増やす	偽陰性の個体を増やす	
96頁・「1)並行検査」の3行目	感度が下がり	感度が上がり	
128頁・12行目	感度	敏感度	「感度」でも間違いではないですが、本書では「敏感度」に統一しています。
196～198頁・式中に用いられている文字	「 $Q_E$ 」および「 $\hat{Q}$ 」	「 $1 - P_E$ 」および「 $1 - \hat{P}$ 」	82頁の記述に合わせています。
196頁・8行目	$P_E$ の補数( $1 + P_E$ )	$P_E$ の補数( $1 - P_E$ )	
203頁・索引	後ろ向きコホート研究 44,49	後ろ向きコホート研究 49	